

# 木と暮らす～みんないっしょに生きている～

東北大学川渡フィールドセンターでは「土」「作物」「家畜」「草地」「微生物」など、フィールドに密着した幅広い分野で基礎から応用まで様々な研究を行っています。

地球にはきれいな「空」「海」「川」そして「大地」「森」があり、そこには、目には見えない生きものから 大きな生きものが “みんないっしょに助け合い” 美しく豊かな地球をつくりあげてくれています。

そこで、今回は「木」にスポットをあて五感で体験できるプログラムを企画しました。何十年も何百年も世代を超えて人間を見守ってくれる木・私たちの生活を豊かにし安心感も与えてくれる木 そんな不思議なパワーをもつ「木」を通して「木とヒトのつながり」を発見してもらいたい。そんな願いをこめました。

この講座に参加して、木々が大空に枝を広げるその下で博士と時間を共有し、あなたも『木が大好き博士』になりませんか？

## 講座の内容

### 講座1 木に会いに行こう！

#### 1. 樹木観察

身近にある樹木。高い木。低い木。木のトンネル。葉の隙間から揺れる光。木々がみんなを待っていますよ。

#### 2. ブルーベリー＆木の実摘み

どの木の実がたべられるのかな？  
おいしい木の実をつまみ食いしよう！



### 講座2 森のレストラン＆森の音楽会

#### 1. 森のレストラン

センター農産物の試食など

#### 2. 森の音楽会

演奏：東北大学農学研究科  
栽培植物環境科学分野  
教授 齋藤雅典

#### 3. 研究紹介・ウシとのふれあい

### 講座3 講話：木と暮らす

講師 東北大学農学研究科  
生物共生科学分野 教授 清和研二

巨木の下にはなにか安心感があつた。村の子供たちは巨木が面倒をみていたのである。巨木は枝を大空に広げその下で遊ぶ子供たちを見守っていたのだ。村に巨木を取り戻せば、また子供たちが集まってきて安心して遊ぶに違いない。

『樹と暮らす』～家具と森林生態～  
清和研二＋有賀恵一（著）イチョウの草より抜粋

### 講座4 木を感じる

1. 木にふれる：作る・遊ぶ・磨く  
木々の手ざわり・温度・音を感じてみよう
2. 木になる！：森ヨガ  
目を閉じて肌と耳で自然を感じてみよう
3. 木を描く！：点描画  
木や木の実・木の葉を描いてみよう



画 清和 研二

日時：平成29年7月23日（日）午前10時00分～午後3時30分

受付：平成29年6月23日（金）～7月5日（水）まで

定員：40名 ※先着順

場所：東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター

参加費：500円 ※損害保険料込み

持ち物：お弁当・水筒・タオル・雨具・虫除け・保険証

※野外活動に適した服：ぼうし・長袖・長ズボン・長靴

申込方法：申込用紙に必要事項を記入の上7月5日（水）までFax・郵送またはE-mailにてお申し込み下さい。

## ☆お問い合わせ☆

東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター

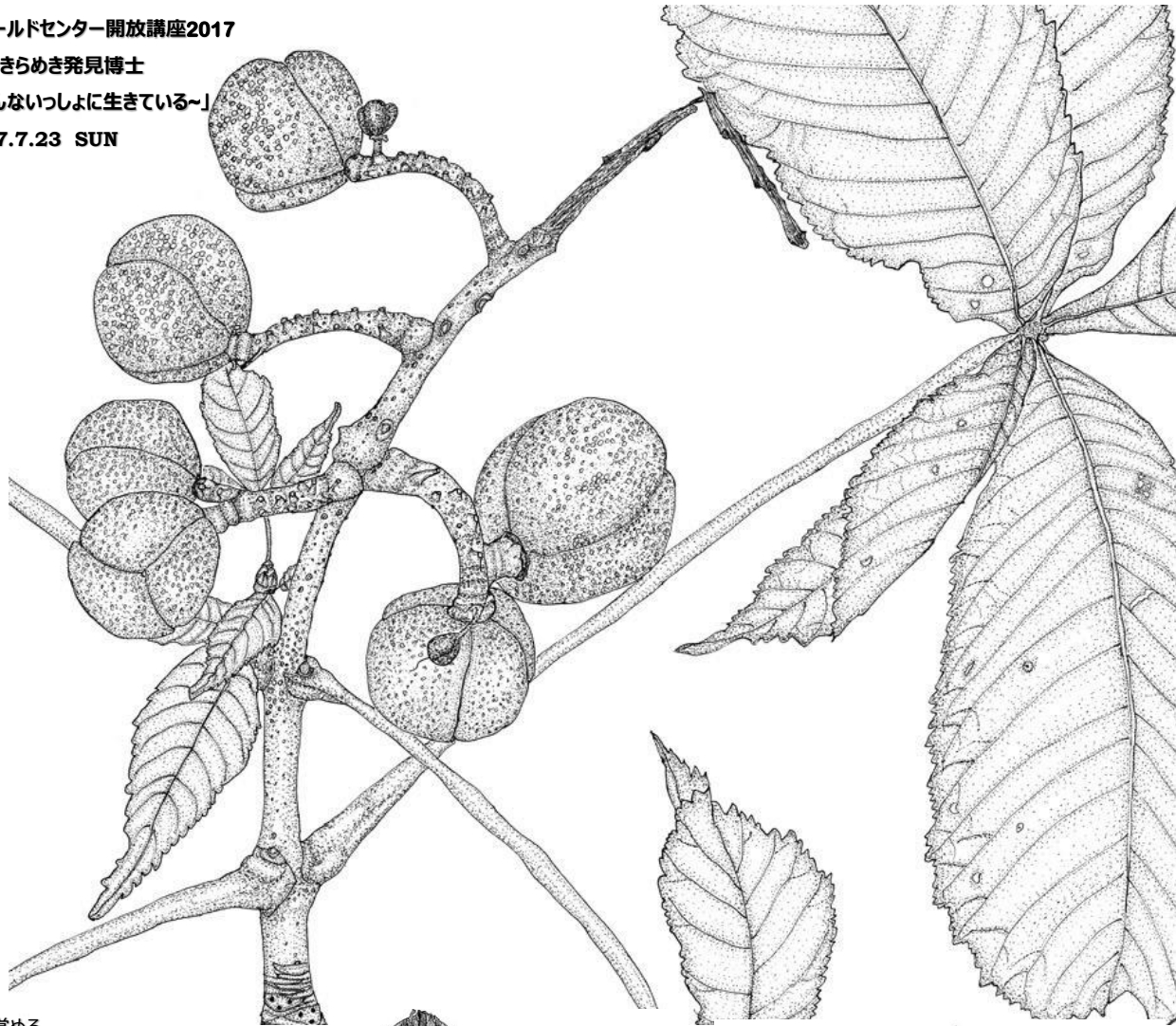
〒989-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字蓬田232-3

TEL：0229-84-7312 FAX：0229-84-6490

E-mail：far-syom@grp.tohoku.ac.jp

H P：http://www.agri.tohoku.ac.jp/kawatabi/index-j.html





雪が解け種子が目覚める。

無数の小さな芽生えが地上に顔を出す。

しかし、梅雨には容赦なくカビが襲い虫たちが葉を食べ尽くす。

それでも、生き延びた小さな樹は幾十もの湿った夏や寒い冬を

やり過ごし、春になるたび、幼子に戻ったように

真新しい葉をひらく。

そして、木はいつしか大きくなっていく。



しかし、森のてっぺんに顔を出したのは、

そして花を咲かせるまでに大きくなったのはどれくらいなのだろう。

親木から飛び立った種子の、何十万分の一、何百万分の一だ。

さらに人間の世代を幾つも幾つも超えて生き延び、老熟していく。

奥地に立つ巨木は奇跡なのである。

想像を超える時間を生き、樹々のいのちは繋がっていく。

